



Title	不安に満ちた府民の声 : 電話相談から
Author(s)	大原, 俊剛
Citation	大阪公衆衛生. 1997, 69, p. 28-28
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83760
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

不安に満ちた府民の声 ——電話相談から

大阪府高齢者福祉室

医 師 大原 俊剛

平成8年7月中旬より大阪府における病原性大腸菌O-157による感染症対策に係る府民への電話相談が開設された。

大阪府庁での電話相談は毎日午前9時から午後8時まで各関係職種から1人ずつ集まって1室に待機し相談を受けるというもので私も医療関係について数日ほど相談を受けることになった。

医療相談に関してでは「O-157の症状はどのようなものか?」「今、下痢気味であるがO-157に感染したのでは?」「O-157に感染して入院している妻のことが心配で今後さらに悪くはならないか?」など食中毒の集団発生に対して不安に満ちた府民の声を耳にすることができた。

かかってくる電話の中には医療相談以外にも、食品・環境関係の日常生活上の身近な相談から行政に対する激励や要望等もあり、自分でも勉強になることもあった。

それにしてもいつものことながらマスコミのテレビの報道や情報提供の府民に対する影響には驚かされるものがある。O-157による感染症は初期診断の難しさや重症化した時の治療法が確立されていなかったことなどで府民のO-157に対して、より不安が強くみられたと思われるが、情報に過剰に反応してパニックに陥ちていると思われるケースも見られた。「何をするにも消毒液だの、生野菜は食べない方がいいとか、果物には熱湯をかけないといけないとか、どんな食品でも加熱の際には75度以上1分でなければいけない」といった具合で…明らかに通常の日常生活が

おくれないうで困っている相談もあった。

今回の事件に関しても、医療情報等の提供として新たなメディアとしてインターネットなどが大活躍した。今後も活発に利用されるであろうが一方でいろいろ氾濫した情報も入ってくる。

それらの情報を正確に把握して伝えられるよう努める必要がある。そのためには保健衛生だけでなく医療全般についても研鑽を積み、現場の医師と行政との連絡を図れるような組織づくりがさらに必要であると思った。